

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 33, No. 6 ACTA UROLOGICA JAPONICA June 1987

泌尿器科紀要

第33巻 第6号 1987年6月

| | | |
|---|-----------|-----|
| 尿中逸脱酵素・蛋白に関する研究 | 安本 亮二・ほか | 807 |
| 原発性副甲状腺機能亢進症23例の臨床的検討 | 森本 鎮義・ほか | 812 |
| 褐色細胞腫の臨床的観察 | 古田 希・ほか | 819 |
| 手術用軟性尿管鏡による腎盂および上部尿管結石の摘出 | 阿曾 佳郎・ほか | 827 |
| 腎癌に対する OK-432 の選択的動注の経験 | 藤岡 知昭・ほか | 832 |
| 膀胱癌患者におけるリンパ球サブポピュレーションの検討 —モノクローナル抗体による解析—(英文) | 森田 辰男・ほか | 838 |
| 膀胱癌が先行したのちに発生した上部尿路上皮腫瘍の検討 | 新家 俊明・ほか | 844 |
| 制癌剤膀胱注入療法による腎盂・尿管腫瘍術後の 膀胱腫瘍発生予防効果 | 田利 清信・ほか | 852 |
| 膀胱腫瘍における ABH 同種抗原の研究 | 深津 英捷・ほか | 857 |
| 逆流防止手術合併症, とくに腹腔内臓器貫通損傷について | 秋山 隆弘・ほか | 864 |
| 前立腺癌の臨床統計的観察 | 内田 豊昭・ほか | 869 |
| 前立腺肥大症術後の膿尿正常化遷延因子の分析 | 池内 隆夫・ほか | 877 |
| 前立腺癌血清マーカーとしての Prostate-specific Antigen (PA) の臨床的評価 | 朴 英哲・ほか | 883 |
| TUR-P 後の膿尿の経過とその期間に関する因子の分析 | 岡村 菊夫・ほか | 889 |
| 前立腺癌の薬物療法における臨床効果判定基準について | 赤座 英之・ほか | 894 |
| 停留精巢の研究 第3報: 停留精巢患者における 精巢内複合糖質の組織化学的研究(英文) | 後藤 百万・ほか | 905 |
| 透析患者におけるブラッドアクセス穿刺部仮性動・静脈瘤の2例 | 青木 正・ほか | 915 |
| 副腎 Myelolipoma の1例 | 新井 豊・ほか | 920 |
| Von Hippel-Lindau 病に合併した両側腎癌の1例 | 福田 百邦・ほか | 925 |
| 両側性腎細胞癌の2例 | 岩村 正嗣・ほか | 930 |
| 下大静脈内腫瘍血栓をともなった腎線維肉腫の1例 | 滝川 浩・ほか | 936 |
| 膀胱原発印環細胞癌の1例 | 細木 茂・ほか | 940 |
| 原発性男子尿道癌の1例 | 山口 誓司・ほか | 945 |
| Webbed Penis の1例 | 原 眞・金森 幸男 | 951 |
| 尿管腔癭を疑わしめた卵巣漿液性乳頭状腺癌の1例 | 近藤 宣幸・ほか | 953 |
| Skene 氏管嚢腫の1例 | 仲地 研吾・ほか | 957 |
| 陰嚢内に発生した Bizarre Leiomyoma の1例 | 西山 直樹・ほか | 961 |
| Vascular-Access-Port を使用した動注療法の1例 | 小早川 等・ほか | 964 |
| Norflaxacin の男子淋菌性尿道炎に対する細菌学的検討と臨床効果 | 岡崎武二郎・ほか | 968 |
| 各種尿路生殖器癌における化学療法後の顆粒球減少症に対する CSF-HU (ヒト尿由来コロニー刺激因子: P-100) の臨床使用成績 | 松本 恵一・ほか | 972 |

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員(年間購読者)に限る。
 2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400字×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書(ワープロ可)、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。年号は西暦とする。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプ(手書き不可)する。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す。
例：山田・ほか：前立腺がん・PSAP
 - (ロ) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C などとする。
 - (5) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などは各々台紙に添付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1 ..., Fig. 2 ..., Table 3 ... などと記載する。説明文は英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリ
 3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療器具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
 4. 別刷：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

宮崎 重 新谷 浩
吉田 修(主幹)
- ミングし、図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したものが望ましい(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,3,7)}、田中ら^{1,3-10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。